



(写真左) ハノーバー大学のメインキャンパスで勤務する竹中さん。かつては城だったこともあり、歴史のある建物で、観光名所にもなっています。(同右上) 第487回「シュツツェンフェスト(射撃祭)」のパレードにも参加。世界中から150万人の観光客が訪れる大規模な祭りです。今年は市制775周年記念ということもあり、盛大に祝われました。(社) 独日友好協会ハノーバー広島友好会会長のゲオルク・ギュンター・テュルナウさんと。(同右下) 市長を表敬訪問したときには、ドイツでの活動の抱負を話してくれました。

今年の4月20日から3年間、ドイツにあるハノーバー大学の数学・物理学部微分幾何学研究所に博士研究員として勤める竹中佑美さん。今回、世界中から応募があった同職にただ一人採用されました。

出発直前の4月12日に眞野市長を訪問し、「これまで微分幾何学を研究し、数学を教えることに携わってきました。数学は世界共通です。現地でも数学の面白さを伝えられたら」と笑顔で報告。

現在、ドイツにいる竹中さんから「出身地も違えば言葉も文化も違う、さまざまなバックグラウンドを持つ人が集まる職場で働いています。年齢や職位に関係なく、ファーストネームで呼び合うなど、気軽に自分の意見を言うことができる環境なので、いつもどこかで議論が始まります。ドイツ語や英語が飛び交っています。活発な議論ができるのもお互いを尊重しあっているからこそだと思います。街に目を向けてみても、多種多様な文化が溶けあっています。毎日が新しい発見の連続で、ドイツでの生活を楽しんでいきます」と喜びの声が届きました。

はつかいら人

vol.9

廿日市市で輝く人を紹介します

ドイツ・ハノーバー国立大学博士研究員

たけなか ゆみ
竹中 佑美さん (31歳・栗栖)

編集後記

就きたい職業や自分の好きなことを探せるのは、平和な時代だからこそ。今回の特集で皆さんのお話を伺い、改めて自分たちは幸せだと感じました。

今年も8月6日を迎えます。70年以上生き方の選択が自由であり続けてきた日本。それは、戦争によって尊い命を亡くされた皆さん、平和で豊かな世界を創るために頑張り続けた皆さんがいてくれたから。好きなものや生きる意味などを、さまざまな経験を通じて考えられるのは、これほど恵まれていて幸せなことなのか。

私も守られてきた選択の自由を、次の世代へ引き継いでいかなければと心から思います。

吉岡里奈

今回初めてみやじま国際ハワートライアスロン大会取材しました。

この日は特に蒸し暑く、急に大雨が降り出すなど撮影に苦労しましたが、それ以上に選手たちにとって過酷なレースになりました。

選手たちの家族や仲間、沿道の声援が大きな力となったと思います。

この大会も今年で節目の10回目。この先も、息の長い大会であることを願います。

西岡秀治

発行 廿日市市 〒738-8501 広島県廿日市市下平良一丁目11番1号
☎0829290001(代)・☎0829291059
編集 分権政策部 経営政策課 広報統計グループ
ホームページアドレス <http://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/>
フェイスブックアドレス <http://www.facebook.com/hatsukaichicity>